

この体験を生かしてほしい

親元を離れて、一週間集団生活をするということは、ほとんどの子どもが初めての経験だったと思います。初日は不安そうなお子もいましたが、調理、洗濯、布団敷き等、普段は、親がしてくれていたことを自分ですることで、いかに周りの人のサポートなしでは生きていけないかというところが体験できたと思います。また、集団生活をする中で自分勝手な行動がいかに人に迷惑をかけることになるかというところも理解できたと思います。この体験をこれからの日常生活に生かしていってもらえたら、この通学合宿がより意義深いものになっていくと思います。



かわのともあき
川野寛明さん

社会教育課 社会教育係 係長

ボランティアスタッフ



おおつか なおき
大塚直輝さん

日一日成長します！

一週間子どもたちとかかわり、成長の早さに驚かされました。初めは指導者に言われて行動していましたが、日がたつにつれ、自発的に動くようになり、その成長が目に見えてわかるので、一緒に生活していて、とてもうれしく、いろんなことを学ぶことができました。今回は、大雨によりスケジュールの変更を余儀なくされましたが、それはそれでいい体験になったと思います。実は、私自身が子どもとき、この通学合宿に参加しました。そのときは今でも覚えていますが、今回の子どもたちも数年後スタッフとしてきつと帰ってくると思います。

少し大人になりました！

「通学合宿に行ってもいい？」我が家の双子の一人が目をキラキラさせて私に聞きました。もう一人は「え〜嫌だ！でも杏奈が行くなら私も行ってみようかな〜。」ということ、二人そろっての通学合宿への参加が決まりました。日ごろ、炊事の手伝いは少々経験があっても、洗濯はおろか早起きも自分では難しく不安がありました。でも、思い切って一週間の旅に送り出しました。そして閉講式。そこには少し大人になった子どもたちがいきました。この体験を通して、家の手伝いをしようという意識が芽生えたようです。本当にありがとうございます。



みやち ようこ
宮地陽子さん

宮地星奈さん・杏奈さん保護者

ま

ちづくりを進めていく上で、子どもたちの健全育成はとても重要です。

次代を担う「桂川っ子」がいきいきと健やかに成長できるように、子どもたちの無限の可能性を引き出すことが、私たち大人にとって大切なことなのではないのでしょうか。そのためにも、私たちが子どもたちの可能性を信じ、教育にあたっていくことが大切だと思います。

そして、子どもたちは、その大人の背中を見て成長していくことを忘れてはいけないと思います。

平成 24 年度第 2 回 通学合宿・野外体験キャンプ

と き 10月8日(月・祝)～13日(土)
ところ 湯の浦キャンプ場・住民センター
対 象 町内に通学する小学6年生
募集定員 20人程度
参加費 一人 2千円
募 集 9月10日～21日

【問合先】社会教育課 社会教育係
☎ 65・2007